
さくら

美空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さくら

【Nコード】

N6106Z

【作者名】

美空

【あらすじ】

新一がいなくなつて10年の季節がながれた。蘭は教師になつて帝丹高校に通うことに。そこでみた1本の大きな桜。その桜は新一とある約束があつて……。

プロローグ

きみの優しさ。

きみのはじけるような笑顔。

きみの声。

きみがかけてくれた言葉。

きみと過ごしたとき。

きみとの思い出。

10年たっても忘れられないきみの存在。

あれからいくつもの季節がながれた。

きみがあたえてくれたこの想い。

ゆれておちそうになった。

あきらめようとした。

もう無理だとおもった。

それでもあきらめきれなかった。

それだけ本気で想っていたから。

きみのおもかげを追っている。

きみは今どこにいるのだろうか。

きみに会いたい。

出会いと別れの季節

春

それは出会いの季節でもあり、別れの季節でもある。

わたしはある高校の前に立っていた。

そこはすごく思い出があつてなつかしい場所。

それと同時に、思い出がありすぎて逆にかなしくなる場所。

今日からわたしは、帝丹高校校で教師として通うことになる。

10年前はあの子たちのように胸いっぱいにくくらませながら、制服に身をつつんで通っていた。

そして今は、スーツを着て校門のまえにたっている。

ここにはいろんなことがあつた。

新一といっしょに登校したり、授業中にねている新一をたたきおこしたり、たまにけんかしたり・・・。

ほんと、どれもこれも新一との思い出ばかりだ。

けれどもあなたはもういない。

10年前、突然すがたをけしたのだ。

たまに電話もくれたけどいつからかその電話もプツリツと途絶えてしまった。

それから新一との関係もあの電話のように途絶えてしまったのである。

それでもわたしは待ちつづける。

あなたが帰ってくることを。

また笑顔でそばにいてくれることを。

「蘭」とよんでくれることを。

わたしは一步ふみだして校門をくぐった。

久しぶりの再会

「蘭お姉さん」

ふりかえるとそこには、歩美ちゃん元太くん光彦君くんの三人がいた。

10年前は小学一年だった彼らは、今はもうりっぱなお姉さんお兄さんへと成長していた。

「久しぶりだね。三人ともすっかり成長して」

なつかしそうにほほえむわたし。

歩美ちゃんたちにあうのは10年ぶりだ。

そう、10年前は少年探偵団としてよく事件にくびをつっこんでいた。

家にもよく遊びにきたり。

でもあることがおきてからは彼らとは関わりがなくなった。

そう、たしかそれは……。

「コナンくんはどうですか」

光彦くんからの突然の質問にかたまってしまふ。

コナンくん……。

コナンくんは10年前、わたしの家であずかっていた。

でもしばらくすると両親がむかえにこられ外国でくらししている。

たまに手紙ももらっていたけどいつのひかその手紙もプツリッとこなくなった。

そう、コナンくんが外国にいつから歩美ちゃんたちとも会わなくなっただ。

「コナンくんは最近、手紙もこなくなってしまうんだよ」

「そうですね」

がっかりとした様子でおちこむ彼ら。

気持ちはわかるかもしれない。
わたしも新一からの連絡が途絶えている。
しかもコナンくんの手紙がこなくなったのとほぼ同時に。

コナンくん……。

いまでもときどき思ってしまう。

コナンくんが新一だったらよかったのに。

わたしがないているときコナンくんはささえてくれた。

新一みたいに。

それがすごくあたたかくて心配している気持ちがよくつたわって。

コナンくんがいたから新一のこと待ちつづけたんだよ。

でもコナンくんがいなくなって急によわくなってしまった。

あきらめようともおもった。

でもコナンくんがいつてくれたから。

「新一兄ちゃんいつてたよ。いつか絶対に死んでももどってくるから。だからそれまで蘭にまっけてほしいんだって」

あの言葉があったから。

だから新一をまちつづける。

ばかだなわたし。

コナンくんはコナンくんで新一は新一なのよね。

「蘭お姉ちゃんもういかないと始業式はじまるぜ」

元太くんの言葉にはっとしたわたしは時計をみた。

やばい、はじまっちゃう。

「だいじょうぶ？ポーとして」

歩美ちゃんからの心配そうな声。

だめだなわたし、今日から教師をするっていうのに生徒に心配かけちゃって。

「うんだいじょうぶ。いこっか」

元気な声で答えたわたしは歩きはじめた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6106z/>

さくら

2011年12月22日00時45分発行